

審 議 事 項

件名・議案	提案者	資料 (頁)	提案理由等 (※シンポジウム等、後援関係については概要を記載)	説明者	根拠規定等	
I 審議事項						
1. シンポジウム						
提案 1	公開シンポジウム 「『紅麴サプリ食品 事故』から考える ～ サプリメント、機能 性表示食品とは？～ 」の開催について	食料科学委員会 委員長	2	主催：日本学術会議食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会 日時：令和6年4月27日（土）17：30～19：30 場所：オンライン開催 ※第二部承認	-	内規別表第 2

公開シンポジウム

『紅麴サプリ食品事故』から考える ～サプリメント、機能性表示食品とは？～
の開催について

1. 主 催：日本学術会議食料科学委員会・基礎医学委員会合同獣医学分科会、食料科学委員会・農学委員会合同食の安全分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：なし
4. 日 時：令和6年（2024年）4月27日（土）17：30 ～ 19：30
5. 場 所：オンライン開催
6. 一般参加の可否：可
一般参加者の参加費の有無：無
7. 分科会等の開催：開催予定なし

8. 開催趣旨：

令和6年（2024年）3月22日に小林製薬のサプリメントである「紅麴コレステヘルプ」を日常的に使用していた消費者に重篤な健康被害が発生していることが厚生労働省より発表され、26日には死者が報告され、4月2日の段階で5名の死者が確認されるという近年まれにみる大規模な食品由来の健康被害が発生した。本サプリメントは「機能性表示食品」であり、表示の届け出は消費者庁にされているが、企業の自主的なデータ検証及び管理で供されているものであり、安全性の担保は全て企業責任となっている。この事故の原因は現在調査中ではあるが、サプリメントに含まれた何らかの意図しない物質が重篤な腎機能障害を引き起こしている可能性があることが、強く示唆されている。

しかしここまで重篤な健康被害が発生した背景には、サプリメントという通常の食品よりはるかに高濃度かつ高頻度で対象となる成分を摂取するものに対して、機能性表示食品という通常の食品の範疇での管理枠組みが用いられてきたことや、薬事法の対象ではないものであるものの、薬品と同様の使用がなされるようなものであったことなど、様々な点で安全性において最適ではない管理がとられてきたことが関係していると考えられる。さらにもっと基本的には、サプリメントとは何か、機能性表示食品とは何かなど、消費者を含む多くの人々の間でも正しく理解されていない可能性がある。今日の時点で本事件の全容はまだ明らかになっていないが、消費者が手軽に利用していたサプリメントによる大規模な健康被害について、どこに根本的な問題があるのか、どう改善したらいいのかを多方面から議論していく。

9. 次 第：

17:30 開会の挨拶

石塚 真由美（日本学術会議連携会員、北海道大学大学院獣医学研究院教授）

17:35 「機能性表示食品のあり方：特定保健用食品から機能性表示食品へ」

熊谷 日登美（日本学術会議連携会員、日本大学生物資源科学部食品開発学科教授）

17:50 「薬品的に用いられる栄養補助食品の自社管理の限界」

有路 昌彦（日本学術会議連携会員、近畿大学世界経済研究所教授）

18:10 「自然由来の物質と健康被害にある背景」

畝山 智香子（立命館大学客員研究員）

18:30 「メディアからの問題提起」

大村 美香（朝日新聞編集委員）

18:45 「リスク管理とコミュニケーションの方向性」

西澤 真理子（日本学術会議連携会員、株式会社リテラジャパン代表取締役）

19:00 総合討論、パネル議論と参加者との質疑応答

＜モデレーター＞西澤 真理子（日本学術会議連携会員、株式会社リテラジャパン代表取締役）

19:30 閉会の挨拶

堀 正敏（日本学術会議第二部会員、東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学研究室教授）

10. 関係部の承認の有無：第二部承認

11. 関係する委員会等連絡会議の有無：無

（下線の講演者等は、主催分科会委員）